

政治とメディアⅡ

科目ナンバリング POL-110
選択必修 2単位

鬼頭 誠

1. 授業の概要(ねらい)

新聞・雑誌・テレビ・ラジオ・SNSといった「メディア」は報道の道具・手段です。メディアを使って報道を担うのが取材編集記者(ジャーナリスト)であり、メディアを通じて政治に関係する情報を伝えるのが政治記者です。

授業では、かつて政治記者であった教員が、その体験を踏まえて、政治を報道する過程で発生する政治の担い手(政治家・官僚・利害関係者)とのかかわり、メディア自体が政治に及ぼす影響、アメリカ・中国における政治メディアの動向、メディア経営、政治メディアの変遷等を解説し、履修者に考えるべきテーマを提示し、質疑します。

「政治とメディア」で考える分野は、メディア関連の就職活動において、また一般の公務員や、警察官・消防官・自衛官などの試験にもかかわっていますから、就活も意識しながら勉強を進めます。

2. 授業の到達目標

実用的で発展的な授業内容の理解と応用ができる
民主政治の下における主権者国民としての意識が向上する

3. 成績評価の方法および基準

授業内発言やレポートと期末試験等で総合評価

4. 教科書・参考文献

参考文献

日刊の新聞各紙、月刊『中央公論』

甲斐祥子・宮田智之著 『政治学のナビゲーター』(2018年)2,200円+税 北樹出版

栗山尚一著 『現代日本外交』(2016年) MELIC指定図書コーナーに配置 岩波現代全書

5. 準備学修の内容

授業でもらったプリントを中心に、授業のあったその日のうちに習ったことを確認しておきます。復習が中心です。この積み重ねを着実に実行することで、授業内試験(期末試験)への対策になります。

なによりも、新聞各紙を読んで読み比べ、読みこなします。

6. その他履修上の注意事項

シラバスは目安で、適宜変更することがあります。政治・外交・憲法担当の新聞報道経験者として、日々の新聞を活用した授業を心がけます。

授業中の行動はすべて就活に直結すると考えて、積極的、現実的、前向き、そして礼儀正しく授業に臨みましょう。

毎回授業の様子は録画され、LMSで、視聴することも毎回の講義概要を確認・印刷することも可能で、復習や補習につかえます。

7. 授業内容

- 【第1回】 ジャーナリズムと法制
- 【第2回】 テレビ・アンカーマンの影響
- 【第3回】 政府追及とジャーナリズムの公正
- 【第4回】 メディア不信・メディアの驕り
- 【第5回】 メディアリテラシー(受けての読解力・知力)
- 【第6回】 中韓メディアと日本メディア
- 【第7回】 デジタル・ジャーナリズムと政治経済
- 【第8回】 インターネット・ジャーナリズムと政治経済
- 【第9回】 調査報道と政治
- 【第10回】 地方自治と地方メディア
- 【第11回】 海外特派員の「上から目線」と日本政治
- 【第12回】 ナショナリズム(戦争)とジャーナリズム
- 【第13回】 グローバル・ジャーナリズムの影響
- 【第14回】 政治記者の一日
- 【第15回】 まとめと試験

(注)以上のテーマは、時事ニュースの動向により、変更する場合があります。